



静岡県田方郡函南町桑原1308-222  
<http://www.gekkou.or.jp/>

## 月光天文台 これまでのあゆみ

- 1957年 9月、中央天文台創立。初代台長に山本一清博士(元京都大学花山天文台台長)カルヴァー46cm反射赤道儀設置完了:運用開始  
 10月、ソ連が世界初の人工衛星スプートニク1号を打ち上げ、観測、写真撮影に成功
- 1958年 月光天文台に改称
- 1959年 宇宙天文大博覧会開催
- 1961年 月光天文台を運営する国際文化交流会が財団法人の認可を受ける
- 1962年 第1回秋春の天文博覧会開催(以降1972年まで18回開催)
- 1963年 移動天文教室を実施。70年まで継続し、全国の小中学校350校で3万5千名が参加
- 1973年 静岡県函南町(現在地)に移転
- 1976年 プラネタリウム館開館 / 「太陽・月・星のこよみ」を発行。現在に至る
- 1980年 在京外交団の子弟を中心にユニバーサルフォーラムを開催。88年まで12回開催
- 1983年 地学資料館開館
- 1988年 わが国初のアポロ型小惑星を発見。以降、176個の小惑星を発見し登録される
- 1989年 天文フォーラムを開催。以後毎年開催
- 1995年 各国大使館・国際機関などの協力を得て「世界のこよみ展」開催。以後毎年行っており、2009年と10年には12カ国の大使を招待
- 2008年 第1回宇宙と天文の講演会開催(以後毎年2回開催)
- 2011年 国際文化交流会が公益財団法人の認可を受ける
- 2017年 静岡県教育委員会の認定を受け登録博物館となる

### 世界平和の実現に向けて

1957年9月21、静岡県沼津市に中央天文台(のちに月光天文台に改名)が建設された2週間後、ソ連が人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功、世界初の偉業に世界中の人々が衝撃を受けることになりました。オイスカの創立者・中野與之助翁は、それ以降に激化する米ソの宇宙開発競争を見越していたかのよう

に、「宇宙時代」に先駆けて中央天文台の建設を指揮しました。さらにそれから6年の間に、岩手、福島、岐阜、愛

### オイスカと天文

知、徳島、熊本の小県に合計10の天文台を設置。その背景にあったのは、日清・日露に始まる数々の戦争を生き抜いた與之助翁の「真の世界平和の実現」に対する思いでした。

61年に設立されたオイスカ・インターナショナルでは、憲章の第4条にその理念を次のように掲げています。

「当機構は、それぞれの生命は密接に繋がり合っており、それらの源は宇宙であると認識し、すべての人々が、国籍、

民族、言語、宗教、文化の違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り、育てようとする世界を理想とする」

ここに示されている通り、與之助翁はすべての生命の根源は宇宙にあると説き、その摂理を学ぶことが理想の世界の構築につながると考えていました。67年には天文地学専門学校(オイスカ開発教育専門学校の前身)を開校。「天文を基調とする 真の人間形成に向かつて努力し 人類恒久平和建設の 大道に献身する」との建学の精神には、人

### 天文を身近に

間が築いてきた知識のみに頼るのではなく、宇宙への尊厳と感謝の精神を持って真の世界平和の実現に貢献する人材を育てたいという思いが込められています。こうした考えは、66年にインドからスタートした海外での農業技術指導の現場でも広く受け入れられていきました。

# 生きるために

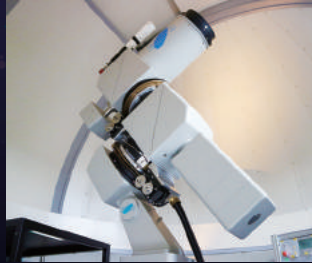




## 渡邊裕彦台長に月光天文台の魅力を伺いました！

—— 60周年おめでとうございます。リニューアル後の見どころを教えてください

9月23日に公開した口径20cmの太陽望遠鏡です。4階に設置した望遠鏡の映像を1階に映し出す仕組みになっています。大気の揺らぎの影響で、映像に乱れが出ることから、通常は真空チューブに太陽像を通すのですが、こちらでは普通の部屋での投影を行っています。この望遠鏡方式を採用しているのは、月光天文台だけです！ 2mの太陽像が映し出される様子をぜひ多くの方にご覧いただきたいですね。



—— 今年は登録博物館にもなりましたね

はい。リニューアルにより、地学資料館もだいぶ雰囲気が変わりました。展示方法や照明などを工夫して、より分かりやすく、楽しんでもらえるものになったと思います。子どもたちは同じ生き物でも化石より恐竜の骨格標本に関心があるようです。パキケファロサウルスの全身骨格はレプリカですが、迫力が感じられるのか、やはり人気があります。



—— 今後の抱負をお聞かせください

地域との連携を深めながら、これまで以上にオープンな天文台として地元で愛される存在になりたいですね。観測のためには、夜間の灯りが少ないこの場所はとても好立地といえますが、幹線道路からも離れたところですから、来場者には不便をおかけしています。予約していただければ駅からの送迎もしますので、多くの方にお越しいただきたいと思っています。

した。そして60周年を迎える今年、新たに口径20cmの太陽望遠鏡が導入されました。これまで大太陽像を映し出して

黒点などの観測を続けてきましたが、その像は直径15cm。今回これが国内最大の2mの大きさに映し出せるようにな

りました。太陽は誰もが知っている天体であり、地球に大きな恵みをもたらす存在です。この太陽に焦点を当てた観測

と発信で、天文に興味を持つ人たちの増やしたいという思いが込められています。

TOPIC

～月光天文台60周年～

# ひとつの空の下に

オイスカの関連機関に天文台があるのをご存じでしょうか。霊峰富士を仰ぎ見る静岡県函南町にある月光天文台は、本年60周年を迎えます。施設を大幅にリニューアルし、最新設備も導入しました。新しく生まれ変わった月光天文台を紹介するとともに、その歴史を紐解きます。(文・構成：月刊「OISCA」編集部)